

「見せ方を変えることで会社も社員も変わる」 「この10年で様々な福利厚生プロジェクトを実践」

三洋商事(株) 河原林 令典 代表取締役インタビュ



三洋商事株式会社
河原林社長

営業所の従業員は250人で22年度の売上高は約70億円。親会社はSanyoホールディングス株式会社で、資産管理と資産運用を行っており、海外でも不動産事業を行っています。

三洋商事(株) 河原林社長にお話を伺った。氏は20歳の時に、わずか20人ほどの同社に入社。それから26年が経った現在、250人の従業員を率いて全国6工場を運営している。

Q・最近の三洋商事の取り組みを教えてください。

「以前は大阪を拠点として動いていましたが、2020年に東京本社工場に本社を移転してから、東京が拠点となりました。本拠地を東京と大阪の二拠点にしたことで、処理能力は大幅に上がっています。現在は携帯電話と通信機器パソコン等のリサイクルを主な事業として、全国6工場が稼働しています」

「基本的に扱った品目は以前とそれほど変化がなく、携帯電話から排出される携帯電話と通信関連機器としてPCリース会社から排出されるリースアップしたパソコンが事業の3大品目となっています。通信関連以外では、上下水道から出てくる廃電源を素材ごとに分けてリサイクルしています。三洋商事としてのリサイクル率は現在99%にな

Q・では以前と比べてどのような部分が変わっていますか？

「工場も設備も人もリサイクル方法もそれほど変わっていないという点で、では何を減らしていくのか。結局、会社をやっていること、『見せ方』を変えていかなければいけない。見せ方というのは、社会的な貢献であったり、環境に対しての取り組みであったり、WEBやSNSでの発信であったり、もちろんメディアへの露出も含まれています。弊社もSDGsに対して本格的に実践するために、CSR・広報部を設立してそれに向けた取り組みを行っています」

Q・以前からリサイクル方法で進化したことはありますか？

「例えば携帯電話を例に取ると、この5年や10年でもの凄く進化・発展を遂げています。以前では考えられないほどハイスペックになっています。今はハイスペックのスマホが主流ですが、基本的な構造は昔とほとんど変わっていません。元々の機械や素材や構造は基本的に同じで、それぞれがバージョンアップした形です。つまりやっていますことはほとんど変わっていない。ちなみに携帯電話の排出量は近年はかなり減少しています」

「選別作業をいかに機械化ができるかが、機械化を進めてもコスト的には合わない。結局、リサイクル率を上げることを考えると、アナログの手作業による選別作業を増やす以外に方法はない。また機械化すれば電気代やエネルギーの負荷が大きくなります」

「選別作業をいかに機械化ができるかが、機械化を進めてもコスト的には合わない。結局、リサイクル率を上げることを考えると、アナログの手作業による選別作業を増やす以外に方法はない。また機械化すれば電気代やエネルギーの負荷が大きくなります」

Q・具体的な環境貢献に取り組んでいる事例はありますか？

「弊社では、これまでの化石燃料由来の電力を、全て自然由来の電力に変え直しました。2019年末に、全工場において使用する全ての電力を自然由来の電力に変換しました。自然由来とは、水力、風力、地熱、太陽光等による電力で、プロ

「何のためにこの仕事をしているのか、どのようなアプローチで他社と差別化を図るのか。それらを考えた結果、全ては見せ方を変えていくという結論に達し、それを実践しているところです」

「2008年という早い段階からエコ・ファースト企業に認定されており、目標を掲げて環境活動に取り組んでいます。これは企業が環境保全に対して自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度で、大手企業が多数認定を受けているものです。現在の登録企業は66社で、昨年から大幅に増加しました。近年は環境省がエコ・ファーストを推奨したことにより、大手の登録企業が増えています。エコ・ファーストの登録企業の中では、以前まで廃棄物業者は弊社だけでしたが、現在は3社に増えていきます。エコ・ファーストは5年に1回審査があり、現行の約束に対する進捗報告と内容の見直しを行います。また海洋ごみ問題についても、清掃活動に参加するなど、三洋商事として出来ることをやっていたと考えています」

「以前までは社内で行っていた鉄道リサイクル部門ですが、別会社のSanyoトラフィコを立

ち上げて本格的に行っています。それまで奈良工場での解体・リサイクルを行っていましたが、現在は千葉工場と奈良工場の二カ所で行っています。弊社の森園がSanyoトラフィコの社長に就任しており、鉄道の解体と素材ごとのリサイクルに加えて、鉄道ファン向けに様々な部品やグッズを販売しています。この辺りを鉄道ファンのニーズを研究・分析して、ネット上で販売を開始したところ、大きな反響がありました。古い鉄道の看板や標識を欲しい人がいるのかと思いましたが、鉄道ファンはそこから聞きつけて、現在では人気商品はすぐに売り切れる状況となっています。多くの鉄道会社のリサイクル・リユースを手掛けるほどに成長しています」

Q・河原林社長のご自身のことについて教えてください。

「私は20歳の時、当時20人足らずの三洋商事にアルバイトとして入社しました。数年後に正社員として採用され、約20年をとお世話になっており、三洋商事の成長期を前代表と共に過ごしてきました。入社当初から色んな業務に関心を持ち、回収した廃棄物の解体作業から始め、運搬トラックのドライバーや営業活動など、多くの仕事を経験させてもらいました」

Q・三洋商事はここ10年余り、様々な福利厚生プロジェクトを実施しています。長期休暇制度、完全週休2

日制度、食堂の設置と無料朝食&ランチサービス、制服のクリーニングサービス、社員旅行の企画・実施、社員親睦会の費用助成等を、次々と実践してきました。残業をなくすためフレックスタイム制を導入しました。またタイムカードについては、そもそも人を信用できないという前提のものなので、それも廃止しました。また外部委託による従業員エンゲージメントサーベイも取り入れてい

「アルマも残業もない弊社ですが、必ず守らなくてはならないことを3つ決めており、社員に常に言っています。①明るく元気にあいさつする、②掃除をこまめにする、③SKHを守ることに(Sは安全、Kは守る、Hは健康)を大切にしてください」

「三洋商事はここ10年余り、様々な福利厚生プロジェクトを実施しています。長期休暇制度、完全週休2

手を尊重し、気持ちよくさせる」という精神に基づいています。この実践を地道に積み重ねていくことが、地球環境を守るといふ私達の仕事に繋がっていきます。他人を思いやる心、それがリサイクルの原点だと考えています」

Q・今後の目標は？

「現在のリサイクル率は99%。これを限りなく100%に近づけていくことを当面の目標に掲げています。前代表が牽引した20年を第一成長期とするならば、これからは第二成長期。産業界は、荒々しい職業体質からトップダウンの経営方針の企業が多い中、私は自身の経験を活かし、現場の状況や考えを吸い上げるボトムアップによる経営を目指したい。何よりも社員の皆さんが楽しくやりがいを感じ、安心して健康に働き続けることのできる職場環境を作り、皆さんと共に進化し続ける会社を目指します」

「私は20歳の時、当時20人足らずの三洋商事にアルバイトとして入社しました。数年後に正社員として採用され、約20年をとお世話になっており、三洋商事の成長期を前代表と共に過ごしてきました。入社当初から色んな業務に関心を持ち、回収した廃棄物の解体作業から始め、運搬トラックのドライバーや営業活動など、多くの仕事を経験させてもらいました」

連続用紙・模造・上白

その他多少にかかわらずご照会ください



上質製紙原料直納問屋

創業昭和22年

株式会社

西川

本社営業所 大阪市東淀川区大隅1丁目5番地23号

TEL:06-6328-4800 FAX:06-6327-1104

http://www.nishikawa.com/

EcoDraft with CLOUDSIGN

DX！契約書の電子化からはじめよう！

たった3分でカンタン作成！

処分委託契約書

全産連標準様式

機密保持契約書 etc...



トライシクル株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポートD館8階

詳しくは、オンラインセミナーへ

050-3177-5254

10:00 - 18:00 (土日祝日・年末年始は除く)



ecodraft.hp.peraichi.com/webinar